

「東洋一」といわれた、初代の十勝大橋 ... 開成橋、河西橋、そして十勝大橋

開成橋は木橋でした。洪水でこわれるたびに修理をくり返していました。

明治43年(1910)、北海道の役所である河西土木派出所が長さ114mの「河西橋」をかけました。かなりがんにょうにつくられた木橋だったのですが、大正8年(1919)には洪水で流されてしまいます。

河西橋は、長さ186mにかけかえられますが、その後も洪水には痛めつけられ、毎年のように修理が続けられました。

十勝にはさらに人が増え、人やものの行き来が多くなります。音更と帯広をつなぐ橋をがんにょうにして、簡単にはこわれないものにする必要性が高くなりました。

昭和15年(1940)、長さ369m、はば18mのコンクリート橋(永久橋)である新しい河西橋がかけられ、「十勝大橋」と名づけられました(旧十勝大橋)。当時としては新しい工法が取り入れられ、世界的な名橋として「東洋一」と賞賛されました。

この十勝大橋は、その後55年間、十勝の交通と産業を支え続け、まだまだ橋として活やくできました。

しかし、このあたりでは堤防と堤防の間がせまいために、洪水が流れにくくなっていました。そこで、音更町側の堤防を引いて堤防の間を広げる「木野引堤事業」がおこなわれることになり、これによって、平成7年(1995)、新しい十勝大橋がかけられました。

開成橋、河西橋、そして十勝大橋



明治44年(1911)開通した河西橋。(写真:『十勝国産業写真帖』より)



新しい河西橋(旧十勝大橋)の工事。(写真:『十勝川写真で綴る変遷』より)



旧十勝大橋。昭和15年(1940)～平成7年(1995)。

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん

さようなら旧十勝大橋 ... 今も少しだけ残っている

今の十勝大橋がかかり、それまでの十勝大橋(旧十勝大橋)はこわされることになりました。しかし、55年間十勝の交通を支え、しかも、55年後の車社会になっても充分役割をはたし続け、何より、住民に親しまれてきました。

そこで、平成8年(1996)、住民の会、帯広市、音更町、帯広開発建設部がいっしょになって「さようなら旧十勝大橋」という、お別れのイベントを開きました。

太鼓の演奏があり、子どもたちのフリーマーケットがならび、あるいは、橋にそれぞれの思いを落書きしたりもしました。最後にわたり納めをして、橋に別れを告げました。

今でも、帯広側の橋台(橋のはしを乗せるところ)が残

されています。



「さようなら旧十勝大橋」。わたり納めをする住民。後ろが今の十勝大橋。

3 世界的な名橋(せかいてきなめいきょう): 旧十勝大橋は、当時としては最も進んだ技術をさまざまなところで使った鉄筋コンクリート製のゲルバーけた橋(橋げたに関節のようなところがある橋)で、橋脚(きょうきゃく: 橋をささえるところ)と橋脚の間

の長さは当時日本一、橋の面積は当時世界第2位だった。くわしくは、十勝川インフォメーションセンター(帯広市大通り北2丁目 電話: 0155-23-2160 月曜休館)に解説してある。 1 銭(せん): 昔のお金の単位。100銭=1円。明治32年(1899)の手